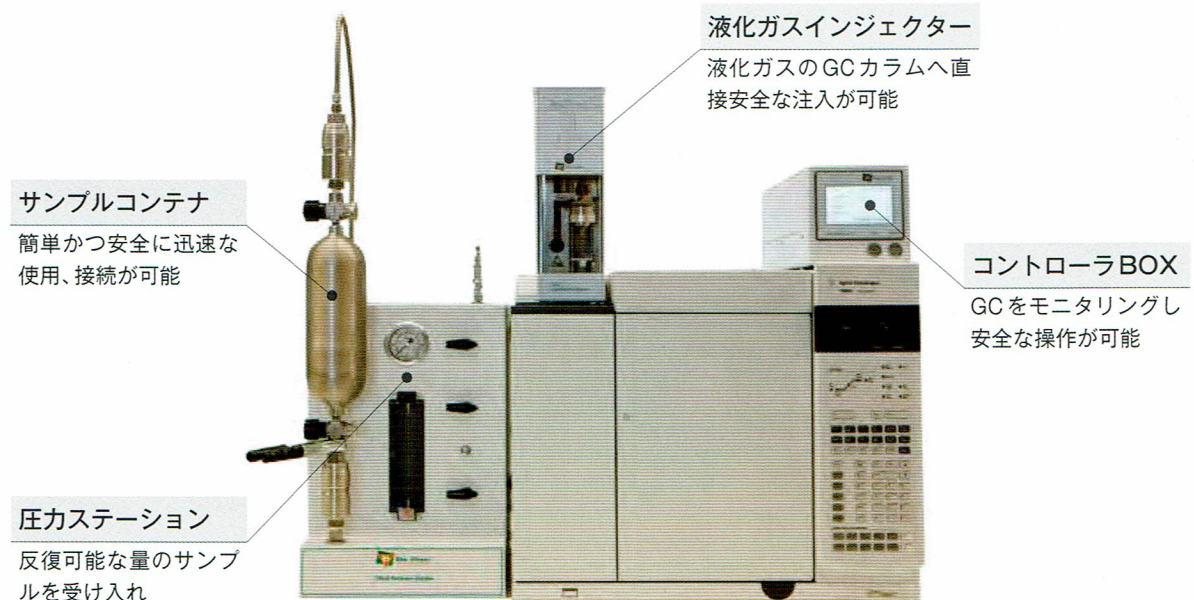




従来の注入機器における比較的長い移送ラインは、成分の残留や吸着を引き起こす傾向があります。これらの複雑な構造をさらに、安全かつ正確に分析するために開発されたものが「液化ガスインジェクター(LGI)」です。

GCカラム上に直接、高圧力下で注入することにより、気化器と加熱された移送ラインを通過する際に生じる任意の分別を防止します。低沸点マトリックス中の高沸点成分の定量的な検出、分析上の課題を解決します。



液化ガスインジェクター(LGI)

特長

- 高速高圧注入(最大50bar)
- 認識分別しない
- 10~500 μ Lのサンプルサイズ
- デッドボリュームが少ない
- 低メンテナンスとユーザーフレンドリー

アプリケーション例

- 高DIPAとLPG中の鉱油
- エーゼルのディーゼル
- エチレン中のポールオイル
- ブタジエン中のTBC
- HCフィードストリーム中のアルコール

LPG中のDIPAおよび鉱油の分析

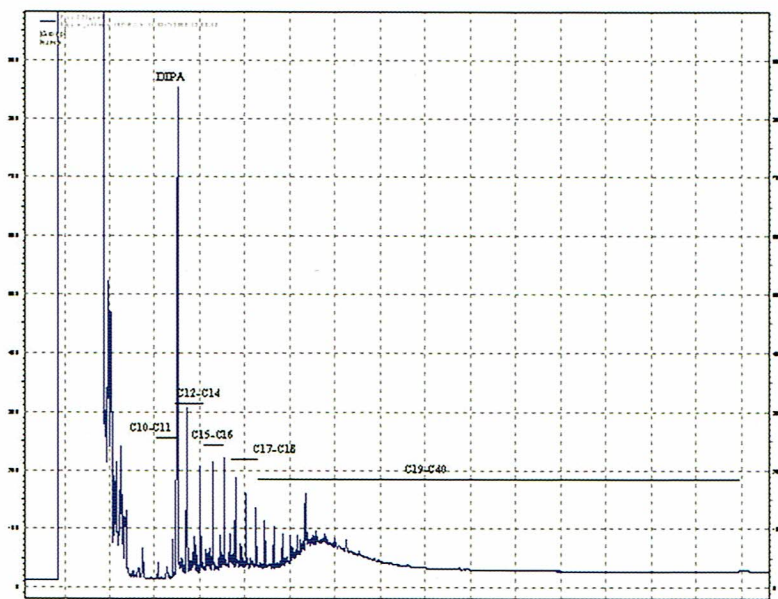
自動車用LPGのいくつかの特性がテストされています。

硫黄を除去するアミン処理の後、大量のLPGを蒸発させてDIPAおよび油汚染を試験し、残留物を計量します。

ISO 13757(LPG - 油性残渣の測定 - 高温法)では、LGIはISO 13757の代替方法です。

GC分析はより正確さらに安全であり、試料の量は250mLで十分です。総鉱物油汚染ではDIPA含量をサブppmレベルで分析可能です。

LPG中のDIPAおよび鉱油に添加されたサンプルのクロマトグラム

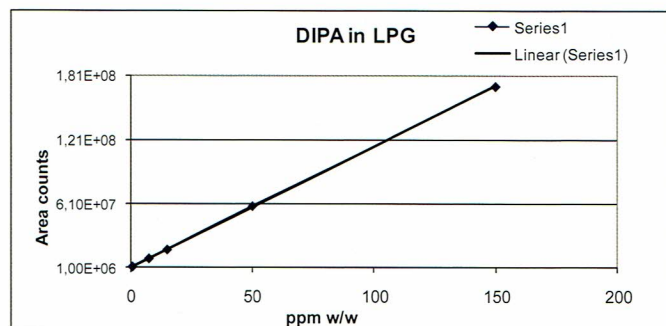


GC結果をISO 13757の方法に関連付けるため、ISO 9377-2に記載されている計算方法です。(水質 - 炭化水素油インデックスの決定; 第2の溶媒抽出とガスクロマトグラフィーを用いる方法が使われます)

残渣の重量は、C10とC40との間の成分の合計です。ISO 13757法における蒸発温度は105℃であり、この温度で、C10およびC11の一部も同様に蒸発します。GC法はC10およびC11の損失がないので関係が行われ、その結果が下の表に示されています。

Sample	Residue Manual method (mg/kg) ISO 13757	Difference GC/Manual (mg/kg)
1	11	-1.8
2	2	-0.7
3	22	-2.3
4	3	-0.8
5	10	-4.2
6	3	0.5
7	3	1.7
8	10	-0.57
9	1	-2.1
10	14	-0.7

0-160ppmのDIPAに対する線形応答



仕様

	DIPA (50ppm)	Oil (50ppm)
最小の検出	100ppb	1ppm
再現性	3%	5%



Da Vinci
LABORATORY SOLUTIONS

New address per August 21st, 2017

Sydneystraat 5
3047 BP Rotterdam
The Netherlands

Postal address:
P.O.Box 12103
3004 GC Rotterdam
The Netherlands

T +31 (0)10 258 1870
F +31 (0)10 258 1879
E solutions@davinci-ls.com
I www.davinci-ls.com



Acumentech

Da Vinci Laboratory Solutions 日本総代理店

アキュメンテック株式会社

〒273-0134 千葉県鎌ヶ谷市西佐津間1-12-2

T 047-769-4500

F 047-419-3029

E info@acumentech.co.jp

I www.acumentech.co.jp

お問い合わせ、カタログをご希望の方は
アキュメンテックへお問い合わせください。